Suma Tomogaoka 通信

兵庫県立須磨友が丘高等学校　総合学科推進部
令和６年度　第４号　12/ 23

３年次　「実学探究」

「実学探究」は少人数ゼミで今日的題材について討論し、考えを深めました。10 月以降は、若年層をターゲットにした詐欺やＳＮＳを介した不適切発信や迷惑行為、闇バイトやその他の犯罪などに焦点をあて各ゼミで事前学習を実施しました。11 月 18 日に兵庫県警察本部より髙松洋一氏に、11 月 25 日に弁護士の吉田維一氏にそれぞれ専門的な視点から事例についての解説やその後の顛末、また、ターゲットにされないように注意すべき事柄や対策についての講演をしていただきました。

事前学習１

事前学習２

大学生とテーマについて意見交換

本校では神戸女子大学と包括的教育協定を結んでおり、図書館利用をはじめ課題研究における大学教員のアドバイスや図書館利用、また部活動などにおいて幅広く相互に連携した教育活動を展開しています。３年次の「実学探究」の取り組みの中では、今回の事例研究活動に大学生が見学・参加しました。参加した大学生の多くは教職を履修しており、中には既に来年の４月から教員として採用が決まっている人もいました。年齢も近く、学生と生徒との対話が弾んでいました。

〈11 月 18 日の生徒感想〉

・犯罪、闇バイト、事故、事件など様々な観点から私たちの周りに潜む危険について話を聞くことができてよかった。詳しい内容まで知れてとてもいい機会だったと思う。気をつけて生活していきたい。
・犯罪には、たとえ少年・未成年であっても相応の罰が与えられるのだと改めて感じた。特に薬物や闇バイトの事例は、ここ最近増えており、身近なところにもあると思うので本当に気をつけたい。
・今の時代は SNS でなんでも出来るので、誰しもが犯罪に巻き込まれる可能性があり他人事と思わずに慎重に SNS を使うべきと改めて感じました。
・講演会を聞いて、自分も簡単に加害者になってしまう事が怖いと思いました。
・自分が何か事件に巻き込まれない保証はないと改めて思いました。SNS は身近にあるし、その怖さを知らないので被害にあわないためには見きわめたり誰かに相談したりすることが大切だと思いました。
・自分自身は信じやすいタイプなのでしっかり調べることを心がけたい。まずは疑う、そして相談する。改めて大切なことだと感じた。
・SNS するとき、当たり前だけど知らない人と会ったありするのは絶対にないようにしたい。
・ノリが悪いと思われるのが嫌で犯罪行為をしてしまったり、おふざけのつもりでしてしまう事が多いと知り、とても恐怖を感じた。
・自分は犯罪の意思がなくても気付かないうちに共犯になっていたり、強制的にさせられたりするので自分がその立場にならないために適切な判断ができるようにしたい。
・SNS のデジタルタトゥーはずっと残ってしまう。SNS を介した犯罪が多くなってきているので「疑い、調べる、相談する」という３つのポイントを意識して過ごそうと思いました。
・なぜこんなのに引っかかるのか凄く疑問だったけれど、安易な考えから始まり、たくさんのワナにはめられてしまうと聞き、恐ろしいと思いました。

兵庫県警察本部生活安全部少年課：髙松洋一氏

〈11 月 25 日の生徒感想〉

・闇バイトやうまい話は私たちを使い捨てにするためなので、大声で断り、まずは周囲の人に相談しようと思います。
また、行政や弁護士など助けてくれるのは身近な人だけでないということを覚えておきます。
・心の余裕がなくなるほど自分で適切な判断もできなくなると改めて思いました。今は未成年で保護者や先生が守ってくれるけど、18 歳になるとこれまで以上に自分の行動に気をつけて自分を客観視し、人生を壊してしまわないように気をつけて生きていこうと思いました。
・バイトを選ぶときはスマホに頼りすぎないようにしようと感じました。困ったことの相談も、楽だからという理由でスマホで 探すと怪しい弁護士もいるときいたので、弁護士事務所まで行って直接弁護士さんに相談しようと思いました。

弁護士：吉田維一氏

２年次　　課題研究　　探究の発展的な取り組み

【令和６年度高大連携課題研究合同発表会 at 京都大学】

11 月２日（土），京都大学国際科学イノベーション棟西館５階において高大連携課題研究合同発表会がおこなわれました。記念ホールでの京都大学大学院教育学研究科の明和政子教授による記念講演の後，ホワイエにて４組の園田陽向さん、５組の有本悠大朗さん、６組の呉祐樹さん、６組の谷口歩夢さんが、質疑応答含めた 15 分間のポスター発表を行いました。ポスター発表後の１人約 10 分のグループ討議も通して，京都大学の先生方，大学院生、大学生、他校生徒から今後の研究の方向性を考える質の高いアドバイス・講評を頂きました。その貴重なアドバイスを足がかりとして、今後の研究を発展させていって欲しいと思います。

〈生徒の感想（抜粋）〉

・大学生や大学教授からのアドバイスがより参考になるものが多かったです。
　「統計処理をしたほうが良い」「普段のタイムを基準とした摂取後のタイムとの比較」など、とてもわかりやすいアドバイスを受けました。
・他校のポスターを見て、発表を聞く中で「こんなまとめ方あるんや」「こんな分析方法があるんや」などたくさんの気づきがありました。
・自校の友人からのアドバイスは必然的に偏った意見が多くなりますが今回、自分の研究を客観的に見てもらい、意見やアドバイスをもらえて参加して良かったと感じました。

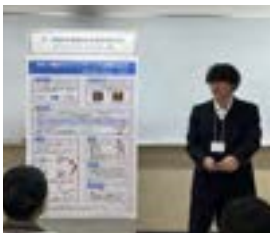
【リサーチ・フェア in 関西学院大学総合政策学部】

11 月 16 日（土）関西学院大学総合政策学部（神戸三田キャンパス）において今年で 27 回目となる「リサーチ・フェア 2024」が開催され、本校から２組の藤岡七海さんが参加しました。持ち時間 25 分（発表 15 分、質疑応答 10 分）を余すことなく使い、大学の先生方からの質問に丁寧に返答しました。他校の生徒の発表や、関西学院大学総合政策学部の生徒の発表もあり、質疑応答にも積極的に参加するなど充実した１日となりました。

【中・高生 探究の集い 2024】

12 月 14 日（土），関西学院高等部の西宮上ケ原キャンパスにおいて「中・高生 探究の集い 2024」が開催されました。本校からは、４組の高原夏海さんが「コンテスト部門」でスライドを用いた口頭発表，２組の栄田怜央奈さん、竹本栄太さんがオープン部門でポスター発表を行いました。

午後のプログラム「交流会」では、全国各地（北は栃木県，南は高知県）から発表に来た学生の皆さんとともにグループディスカッションを通して親睦を深めることができました。閉会式には関西学院大学の中央講堂に集まり、コンテスト部門の結果発表と表彰式、大学の先生方からの講評とがあり、最後に集合写真の撮影がありました。全国の生徒の皆さんとの交流から多くの刺激を受けた一日となりました。



【甲南大学リサーチフェスタ 2024】

12 月 15 日（日）、本校においてオンライン（zoom）で「甲南大学リサーチフェスタ 2024」が行われ、本校から２年次の生徒４名（２組の塚本蓮仁さん、５組の岡崎志穂さん、梶村葵衣さん、松下潮奏さん）が参加し、スライドで課題研究の成果を発表しました。質疑応答を含めて合計９分の持ち時間で、午前にリハーサル２回、午後に本発表３回、合計５回の発表をやり遂げました。最初はペース配分やパソコンの操、等に戸惑いましたが、回を重ねるごとにコツを掴み、本発表は司会進行・発表ともに上達し、段取り良く場を仕切ることが出来ました。また、自分の発表を聞いてもらうだけでなく、自分自身も、他校の発表３グループ分の審査に参加しました。４つの観点別の点数付けに迷いながらも、自身が審査員を務めることで客観的に見る力が身についたのではないかと思います。また、積極的に質疑応答に参加する頼もしい姿が印象的でした。

16：40 に閉会式を迎え、長い１日が終わりました。

〈生徒の感想〉

「他校のみなさんの発表は、表やグラフを使ってわかりやすくまとめていたものが多かったように思います。参考になりました。」「たくさんのアドバイスをもらったので今後の研究に生かして行きたいと思います。」

1年次　　カタリ場（ジブシる）　ー産業社会と人間ー

12月12日(木)、42回生が「ジブシる」の出張授業を受講しました。
大学生の先輩たちの明るい挨拶で始まった今年度の「ジブシる」では、先輩たちの経験談を聞いていくうちに、初めは緊張していた生徒たちも、次第に打ち解け、楽しそうに先輩たちの話に耳を傾けている姿が多く見受けられました。先輩の話の中には、自らの悩みと直結する話や、今後の学校生活に活きる話がありました。そこから、勇気をもらったり、今後に向けてのヒントを得たり、中には、これからの生活でがんばりたいことを「先輩」と約束している生徒もいました。生徒たちから見て身近なロールモデルとして、大学生の先輩たちとふれあい、将来の自分の像とも重ね合わせることができ、大きな刺激になったようです。今回の授業で感じたこと、決意した気持ちを忘れず、それぞれの目標達成のために高校生活を送ってほしいです。

〈生徒の感想〉

・今回の体験を通して、自意識をうまく理解しながら、環境要因を言い訳にせずに、自分を見つめ直していきたいなと思いました。また、人生を楽しく過ごす環境について、私は自分の居場所に執着するのではなく、自分を忘れず、自分の居場所を作っていけるような行動が大切だと気づくことができました。
・今回の時間を通して、これからの人生の中で、やりたいこと、将来の目標は、どんどん変わっていくかもしれないし、ずっと変わらないけど、「やってみる、飛び込んでみる」と「自分を知る」ことはどんなことにも言えるので、今後も大切にしていきたいと思いました。
・今回の体験を通して、自分を見つめ直し、振り返り、お話を聞いたことによって、自分では気づいていなかった悩み事に気づけたことや、今まで納得できていなかった考え方を理解することができました。新しい自分になれたようで、今回の時間はすごくいい経験になりました。

クロスカリキュラム探究　ゼミ混合発表会　ー産業社会と人間ー

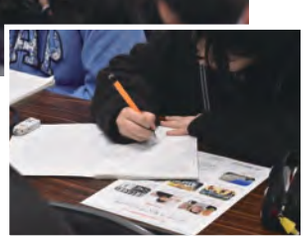
12月11日(水)に、1年次の産業社会と人間の授業で、クロスカリキュラムの成果発表を行いました。
今年度のクロスカリキュラムでは、科目の異なる教員と外部組織とが協力し、生徒は普段の授業では学べない知識を学ぶことができていました。班のメンバーで協力して、学んだ成果をまとめたポスターからは、クロスカリキュラムで生徒たちが学んだことが、とても分かりやすくまとめられており、今回のクロスカリキュラムでの生徒の成長を読み取ることができました。
普段の授業では学ことのできない知識を学んだ生徒たちは、入学した時より逞しく見え、更には、その学んだ知識をクラスメイトに向けて発表している姿からは、来年度行う課題研究に向けて、きちんと準備ができていることを感じさせられるものでした。
今回のクロスカリキュラムで興味が湧いたもの、疑問に思ったこと、もっと調べたいと感じたものなどを忘れず、今後の学習活動に活かしてほしいと思います。

〈生徒の感想〉

・自分たちが調べたことをまとめ、何も知らない人に理解してもらうことは難しいことだなと思いました。分かりやすく伝えるためには、文字の配置や色、文字の大きさ、量など、工夫するべきところが多いと気付かされました。
・私たちの班では、ずっと一方的に話していただけなので、聞いている人たちにとっては分かりづらかったのではないかと思いました。次このような機会があったときには、クイズや質問を投げかけながら、一方的な発表にならないようにしていきたいです。
・クロカリの授業では、最初は内容が分からず、難しいのかなと感じていたけれど、1回1回の授業でより深い内容を知ることができ、興味を持つことができました。他の班の発表を聞いて、色々な分野の色々な良さを知ることもできました。

NIE講演会

12月13日(金)の3、4時間目は、神戸新聞社より三好正文様をお招きし、『震災について』講演会をしていただきました。
2025年は震災から30年の節目の年になります。生徒達は震災を経験していませんが、今自分が住んでいる神戸が当時どのような被害にあったのか、さらに、昨今のSNS等の普及による情報の受け取り方など、この先起こるかもしれない自然災害に対して自身がどう行動するべきなのか、心構えを持つことができたようです。



〈生徒の感想〉

・スマホやSNS、各種メディアが普及している今、災害が起きても家族に連絡がしやすい反面、デマやフェイクニュースが発生するリスクもある。普段なら事実かどうか見極められても、非日常で正常な判断ができるとは限らない。人の不安な気持ちを利用する人もいるという事を知っているだけでもフェイクニュースに振り回されなくなると思った。
・新聞など、震災を直接体験した方々がそのままの状態で残すものは、後の世代に「語り継ぐ」時にすごく重要になると思いました。また、被災地をつなぐきっかけにもなり、支援の広がりにもつながると思いました。
・犠牲者の生きた証を残し、それを語り継いでいくことが大切で、そこから災害への対策や意識につなげることがより大切だと思いました。このようなことから、地方新聞ならではの地域の人々との関わりがあり、それが災害時により重要なものになるとわかりました。